

## 本人視点にたった地域共生社会づくりのポイントと実際

～ 認知症地域支援推進員の活動促進を中心に～

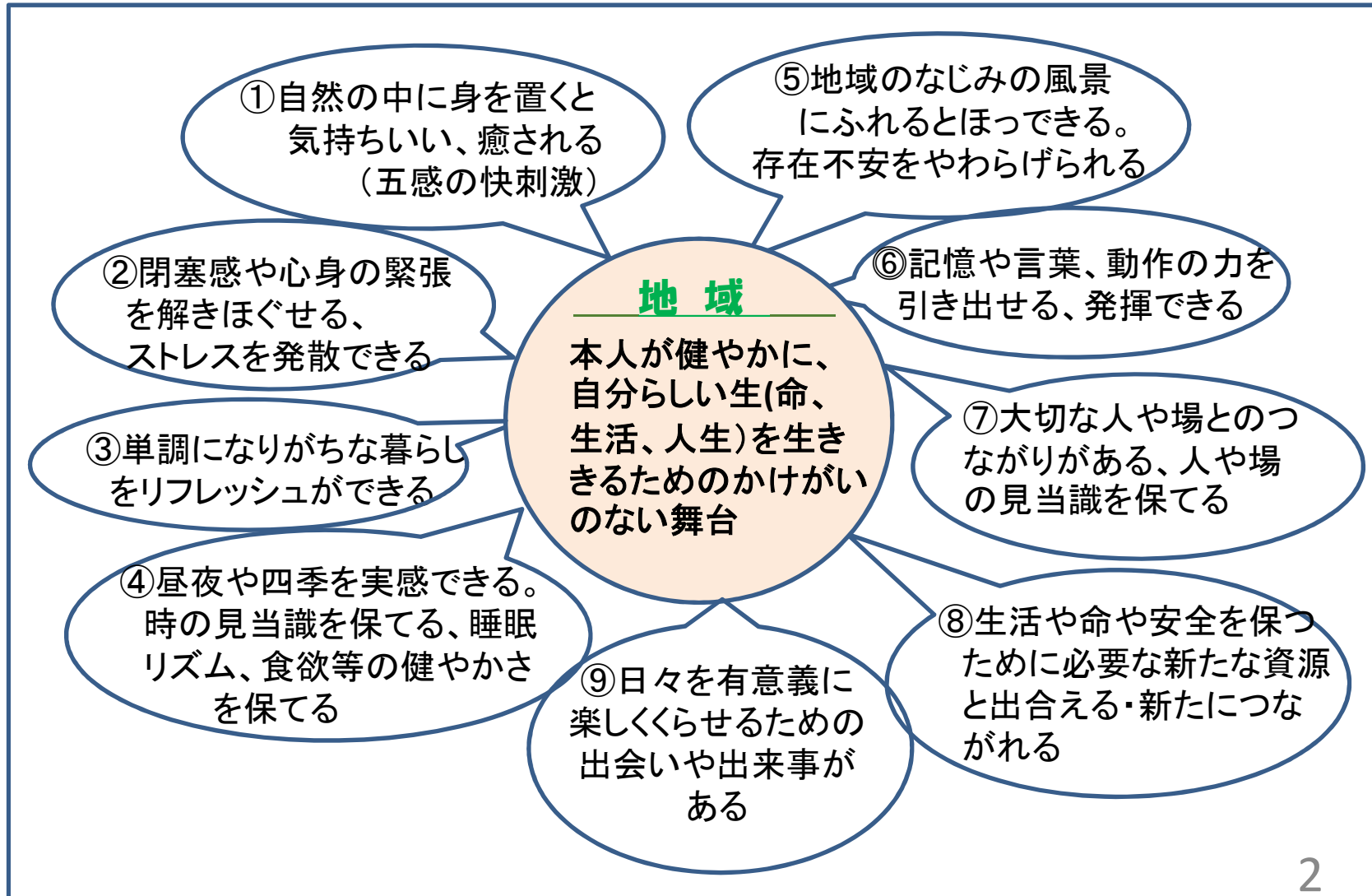




一人ひとりが、地域の中で自分なりに生きてきている  
わが地域を舞台に、共によりよく生きていけるように

## 地域のかけがえのなさ

※特に、自由に地域にでることが難しくなっていく認知症の人にとって



## この時間にお伝えしたいこと

1. これからの認知症施策の方向性・目指す姿の確認
2. 施策推進の鍵を握る認知症地域支援推進員(推進員)の機能の確認
3. 推進員の活動**促進**のポイントと実際
  - \* 推進員が機能するためには、行政による活動促進が不可欠

# この時間にお伝えしたいこと

1. 認知症施策の方向性

2. 認知症施策推進の鍵を握る推進員の機能の確認

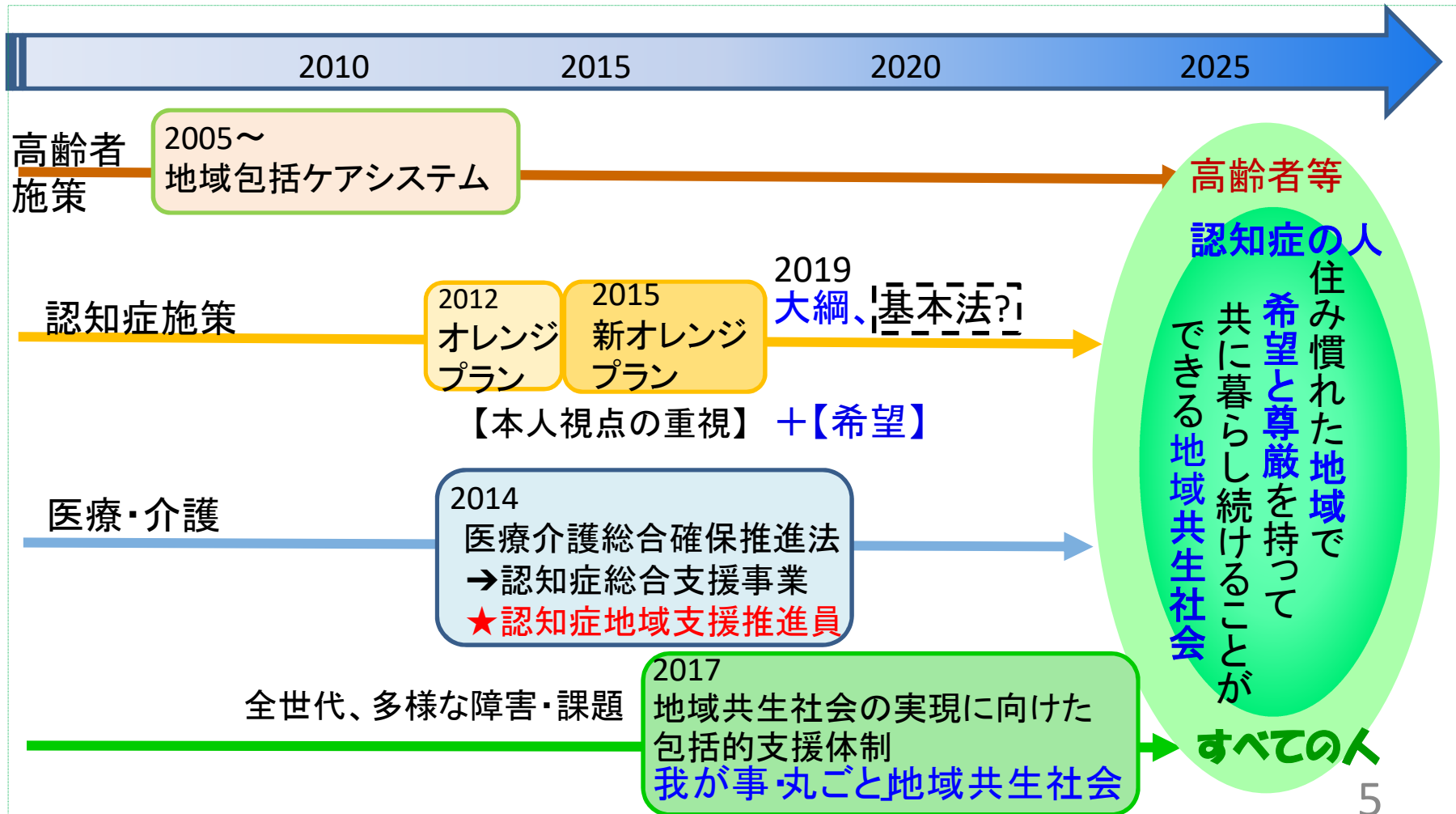
3. 推進員活動促進のポイントと実際

各市町村で地域共生を実現していくために  
行政として推進員の活動を促進するために  
やるべきこと・できることを明確に



# 1. 認知症施策の目指す姿

## 国の認知症関連の施策の動向



# 「共生」には、2つの意味がある

「認知症施策推進大綱」より

## 共 生

本人が、認知症とともに  
希望を持ってよりよく生きる

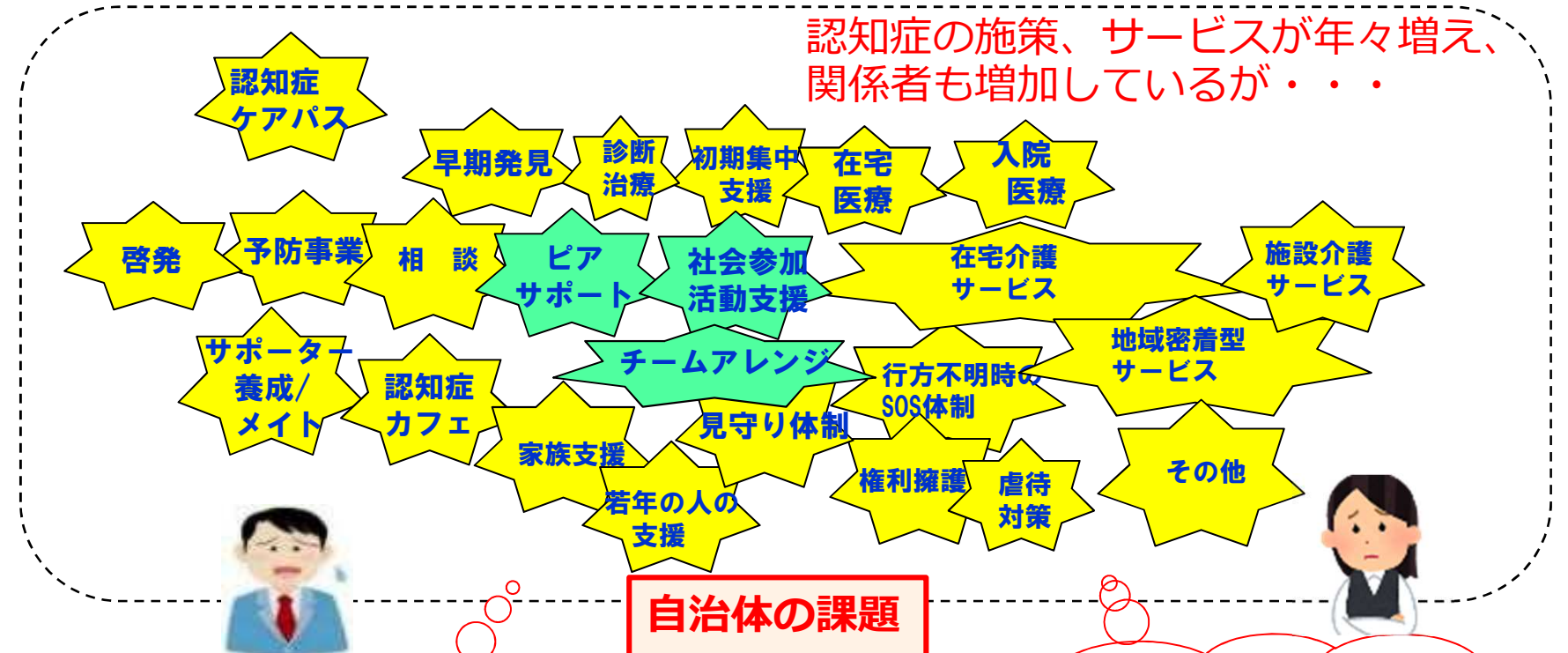
本人と地域社会の人々が  
共によりよく生きる

自分が  
(わがこととして)



## 2. 認知症施策推進の鍵を握る推進員の機能

推進員が、なぜ誕生し、なぜ配置されたのだろうか？



事業や人がバラバラ

互いを知らない。  
連携・協働が進まない

本人視点での支援体制が未整備

本人が適時適切な支援につながらず  
真の成果があがらない

これらの課題を解消していくために誕生したのが、推進員！ 独自配置→義務化



# 推進員の機能

厚生労働省資料を基に作成

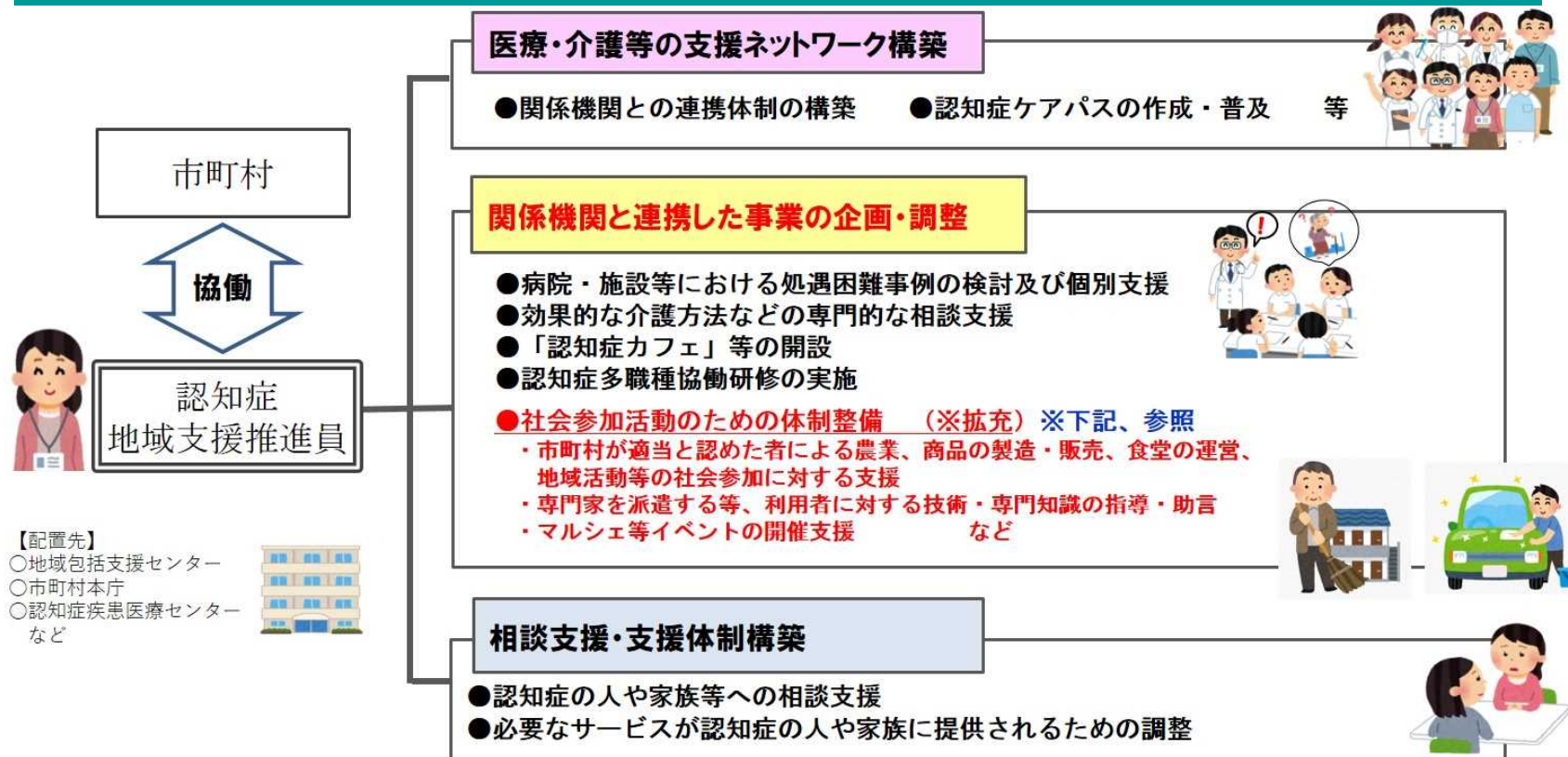
- ①バラバラのままではなく、地域にあるものをつなぐ：ネットワークの構築
- ②関係機関と連携しながら地域で重点となる事業を推進：事業の企画・調整
- ③（早めの）相談を強化し、本人・家族が必要なことにつながる流れを作る：相談支援・支援体制づくり



人(住民)が、元気な頃から最期まで、地域でよりよく暮らし続けられる共生社会づくり

# 認知症地域支援推進員

2019年度

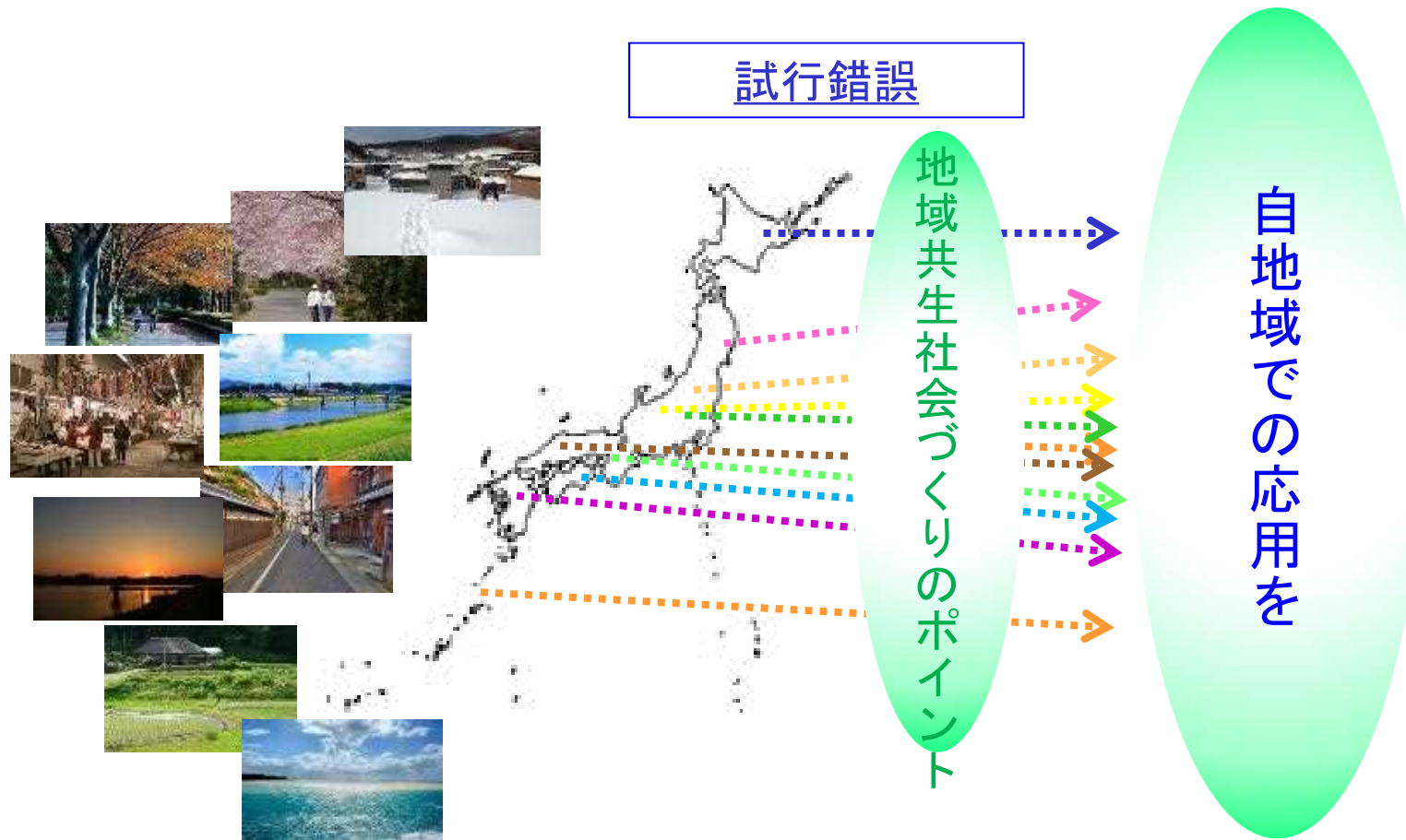


## ※互助を育む | 社会参加活動や認知症予防のための体制整備

認知症を有する人をはじめとする高齢者の中には、これまでの経験等を生かして活躍したいとの声が少なくない。地域において「生きがい」をもった生活や認知症予防等の介護予防に資するよう、認知症地域支援推進員の取組として、平成31年度予算案において社会参加活動のための体制整備を地域支援事業に位置づけ、その取組を支援。

### 3. 地域共生社会づくりのポイントと実際

\* 市町村が推進員活動を促進しながら



### 3 . 地域共生社会づくりのポイント ～年々、着実に取組を進めている自治体の共通の特徴～



#### 1. イメージの変革: 絶望から希望へ

\* 行政担当者・関係者が、認知症の偏見を払拭し、希望の結集軸をつくる

#### 2. 視点の変革: 支える側の視点から本人の視点重視へ

\* 地元の本人の声を聴き、本人視点で考え、動くことを徹底

#### 3. アプローチの変革: 事業重視から本人が暮らすつながり重視

\* 事業を手段として、本人が暮らすためのつながりの強化・新たなに創る

#### 4. 主体の変革: 行政主体から、(本人含め)地域が主体へ

\* 行政が決め「ご協力願う」「活用」でなく、本人・地域の人たちが決めて共に動く

#### 5. フォーマーションづくり: 推進員を中心に効率的に推進するカタチをつくる

\* 推進員を孤立させず、最大限に機能できるためのフォーマーションを

## 1. イメージの変革: 絶望から希望へ

\* 行政担当者・関係者が、認知症の偏見を払拭し、希望の結集軸をつくる

### 現在は、認知症をめぐる考え方・生き方の大きな変革期

これまで: オールドカルチャー  
(支援者視点、問題点重視、絶望)

- ・ わからない、できない
- ・ 自分らしさがなくなる
- ・ 恥ずかしい、隠す、黙る
- ・ 閉じこもって茫然とした日々
- ・ 支えられる一方
- ・ あきらめ  
孤立、暗く、絶望的

★これから: ニューカルチャー  
(本人視点、可能性重視、希望)

- わかること、できることがある
- 認知症になっても、自分は自分
- 早く周りにオープンに、伝える
- 地域を舞台に、心豊かな日々
- 支えられる一方でなく、  
地域の大事な一員として活躍
- あきらめずに  
一緒に、楽しく、希望をもって

事業や取組を焦らずに新しい考え方・生き方に、しっかりとチェンジを！  
行政職員、推進員がチェンジメーカーに



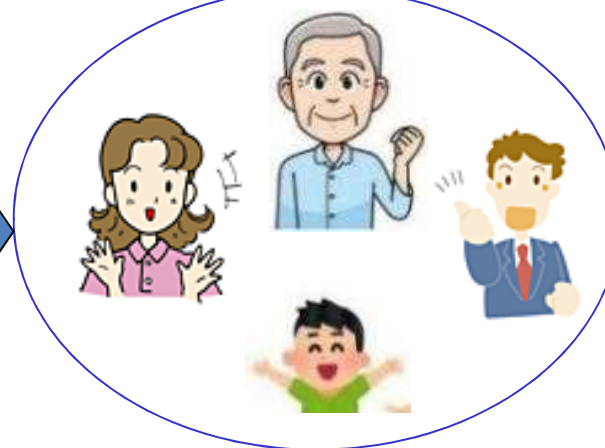
事業やメニューは増えたのに絶望の悪循環に陥っているケースが後を絶たない。

→行政、推進員の大きな使命は、「希望の良循環」を生み出すこと。



### 絶望の悪循環

できないことの方にとらわれ、  
暗く、楽しみなく、ストレス大  
⇒お互い消耗、仲たがい  
⇒状態悪化、お互いに力を出せない  
⇒みんなが後ろ向きに  
⇒できないことが増える  
⇒お互い、自分らしさが失われる。  
自立/自律できる期間が短い。  
(成果上がらない)

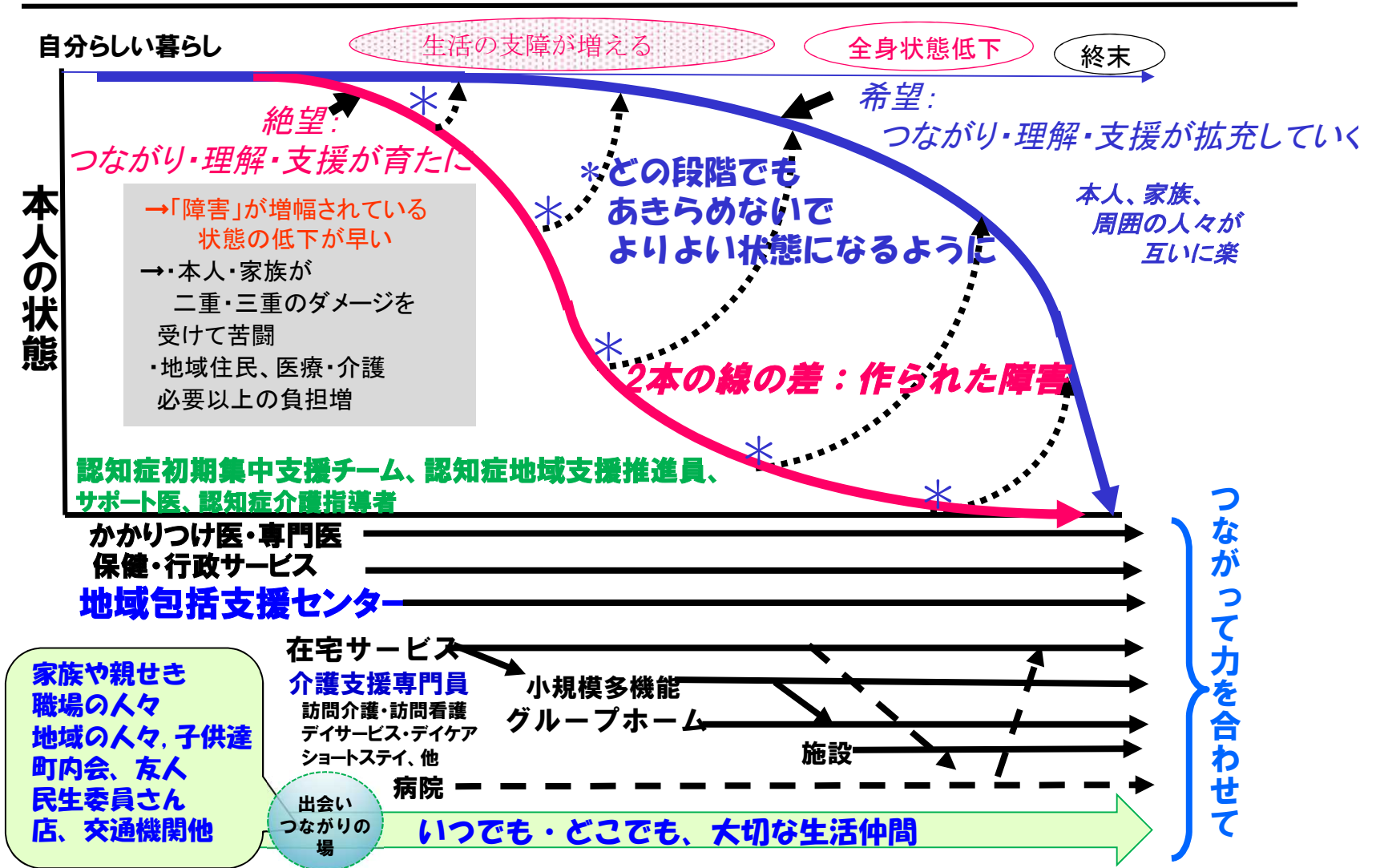


### 希望の良循環

できることをみつけながら  
明るく、楽しく、ストレス小さく  
⇒お互いを活かす、仲良く  
⇒状態安定、お互いの力を伸ばす  
⇒みんなが前向きに  
⇒できることが増えていく  
⇒お互い、自分らしさが保てる。  
自立/自律できる期間が長い。  
(真の成果上がる)

# 認知症は長い旅路:よりよい人生行路を辿るために「希望」が欠かせない

「希望」:きれいごとではなく、認知症になっていくためには切実に必要



お互いに希望を持って暮らせる

# ★希望を失わず、力をあわせよう！



行政・推進役の人が、  
自分ごととして、希望を素朴に語ると  
住民、支援関係者、そして  
本人、家族が奮起する。  
迷わずに、同じ方向を向いて、  
動き出す。⇒連携・協働の鍵

本人  
地域



## 希望を伝え、語り合う。

\* 飾り文句ではなく、わがこととして、この先の希望を語ろう。

あらゆる機会に伝える(つぶやく) → 9月～、集まりやイベントも多く、絶好の時期！

専門職はもちろん  
事務職が「希望」を語ると  
効果大きい  
\* 人の素朴な願いとして

### 【希望を、担当者が自分の言葉で語り続けている地域】



本人・家族・地域の  
人と会うたびに



医療・介護・支援の  
関係者への説明時に



様々な会議や検討会  
等の集まりで



委員会や議会で



カフェやサロンで



様々な講座等で  
(サポーター、予防、健康)



企業に向けて



子どもたちや先生に



報告会で

\* 担当者の「希望の一言」を待っている人が地域にいる  
→ 地域の人材・潜在力が、浮かび上がってくる。

\* 特に推進員

★ 呼応する人が地域には必ずいる

「自分もそう思う」「実は、ずっとそうあって欲しいとねがっていた。

「それなら、一緒にやりたい」「協力するよ」「自分たちが動くよ」



# 本人自身が、次に続く本人、そしてすべての人に 希望を伝える時代になってきました。

一足先本人、日本認知症ケアフォーラムグループ  
認知症とともに生きる希望宣言

- 1**  
自分自身がとらわれている常識の殻を脱ぎ、  
前を向いて生きていきます。
- 2**  
自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、  
社会の一員として、楽しみながらチャレンジしていきます。
- 3**  
私たち本人同士が、出会い、つながり、  
生きる力をわか立させ、元気に暮らしていきます。
- 4**  
自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、  
身近なままで見つけ、一緒に歩んでいきます。
- 5**  
認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、  
暮らしやすいわがまちを一緒につくっていきます。

## 「認知症とともに生きる希望宣言」

→声を寄せ合い宣言

→「認知症の私たちだからこそできることだかがある」

本人の希望を大切に活かしていこう。

→全自治体で本人とともに普及を進めていく(大綱)

\* 紙を配るだけでなく、

これからどうありたいか、希望を語り合い、

本人とともに共生に向けたアクションを生み出す

5  
認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、  
暮らしやすいわがまちを一緒につくっていきます。

4  
自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、  
身近なままで見つけ、一緒に歩んでいきます。

3  
私たち本人同士が、出会い、つながり、  
生きる力をわか立させ、元気に暮らしていきます。

2  
自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、  
社会の一員として、楽しみながらチャレンジしていきます。

1  
自分自身がとらわれている常識の殻を脱ぎ、  
前を向いて生きていきます。

一足先に認知症になった私たちからすべての人たちへ



認知症とともに生きる希望宣言：前 文 \*リーフレット中面真ん中

---

私たちは、認知症とともに暮らしています。

日々いろんなことが起き、不安や心配はつきませんが、  
いろいろな可能性があることも見えてきました。

一度きりしかない自分の人生をあきらめないで、  
希望を持って自分らしく暮らし続けたい。

次に続く人たちが、暗いトンネルに迷い込まずにもっと楽に、  
いい人生を送ってほしい。

私たちは、自分たちの体験と意志をもとに  
「認知症とともに生きる希望宣言」をします。

この宣言をスタートに、自分も希望を持って暮らしていこうという人、  
そしてより良い社会を一緒につくっていこうという人の輪が  
広がることを願っています。

## 「認知症とともに生きる希望宣言」



1. **自分自身がとらわれている常識の殻を破り、前を向いて生きていきます。**
2. **自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、社会の一員として、楽しみながらチャレンジしていきます。**
3. **私たち本人同士が、出会い、つながり、生きる力をわき立たせ、元気に暮らしていきます。**
4. **自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、身近なまちで見つけ、一緒に歩んでいきます。**
5. **認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、暮らしやすいわがまちを一緒につくっていきます。**

「認知症とともに生きる希望宣言」リーフレット(A3二つ折サイズ)をご活用下さい。

日本認知症本人ワーキンググループのホームページでご覧いただけます。(ダウンロード/プリントすることもできます)

<http://jdwg.org/>

## 認知症とともに生きる希望宣言：最後のメッセージ（裏面）

---

\* 今とこれからを、  
よりよく生きていくために、  
一人でも多くの人が、  
わが事として「希望宣言」をし  
一緒に歩んでほしいです。

\* この希望宣言が、さざなみのように広がり、  
希望の日々に向けた大きなうねりになって  
いくことを ころから願っています。

（2018年11月）

参考

「希望宣言」を地域で伝え、語り合い、立場や職種を超えて  
「希望をもって共に生きる」考え方・地域づくりが広がっています。

\* 希望：大それたことでなく、一人ひとり自分らしく生きて上での  
(ささやかな)望み・願い →これまであまりにも蔑ろにされてきた



**認知症とともに生きる希望宣言**

- 1 自分自身が関わっている協議の場を盛り、  
相手側にも生きていきます。
- 2 自分のお家賃やして、大切にしたい暮らしを続け、  
社会の一員として、働きながら貢献していきます。
- 3 専ら本人と同じ、出金いづなあり、  
生きる力をもちあわせ、元気に暮らしていきます。
- 4 自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちが、  
お互い支えあえるように、一緒に生きていきます。
- 5 認知症とともに生きている体験や工夫を話し、  
伝えあえるように、一緒に生きていきます。



【希望のリレー】



● 専門職が本人に  
本人が希望宣言に見入る。  
「わたしも、こう  
言いたかったあ」



● 本人から本人へ  
本人が不安で  
いっぱいの人  
の  
相談役にな  
り、



● 本人が、地域で  
身近な友人や地域  
の人たちと希望を  
語りあう。



● 本人が企業へ  
できることがある、  
会社や社会に貢献  
したい思いを伝え  
る

日本認知症本人ワーキング  
グループ  
ホームページから  
ダウンロードを



● 展示、配布、掲示  
相談窓口で常  
設、  
来訪者に手渡し。  
壁に拡大コピーを  
掲示。



● 講座、講演会  
配布し、本人の思  
い、わがまちで  
共に生きることを  
話し合う。



● 医療・介護の研修  
日常を振り返り、  
改善したいこと、  
共に  
できることを具体  
的に話し合う。



● 条例作りに活かす  
本人と条例作り  
「認知症の人とともに  
築く総活躍の町」  
条例(御坊市)

## 2. 視点の変革：支える側の視点から本人の視点重視へ

\* 地元の本人の声を聴き、本人視点で考え、動くことを徹底

本人の視点重視：5年以上前からの重要項目だが、  
形骸化している、地域に浸透していない

本人の視点にしっかりと立つためには

本人の声を聴く

すべての事業、関わり、支援の出発点

\* このあたりまえのこと（基本の基）を、ないがしろにしていないか。

聴くのは無理、とやり過ごしていないか。



# 「本人の声を聴く」：多様な展開が生まれる

## 1. 認知症観の刷新：目からウロコ

① 一般的知識でなく、本人が「生きていく現実」に触れることができる。

- ・ 具体的、生身の体験
- ・ リアルな思い

認知症バリアフリー  
の第一歩！

② 「本人から見た世界」を学ぶことができる

→ これまでの周囲の偏見・誤解・無理解の数々（バリア）が浮き彫りになる

③ 様々な力・可能性を有していることを知ることができる。

## 2. 生きるために切実に必要なことを、本人から学ぶことができる

- ・ 本当に必要なことは・・・、優先順位が高いことは・・・
- \* 「あたりまえに生きる」ための多領域の人たちの関与の必要
- \* 一人ひとり、違う

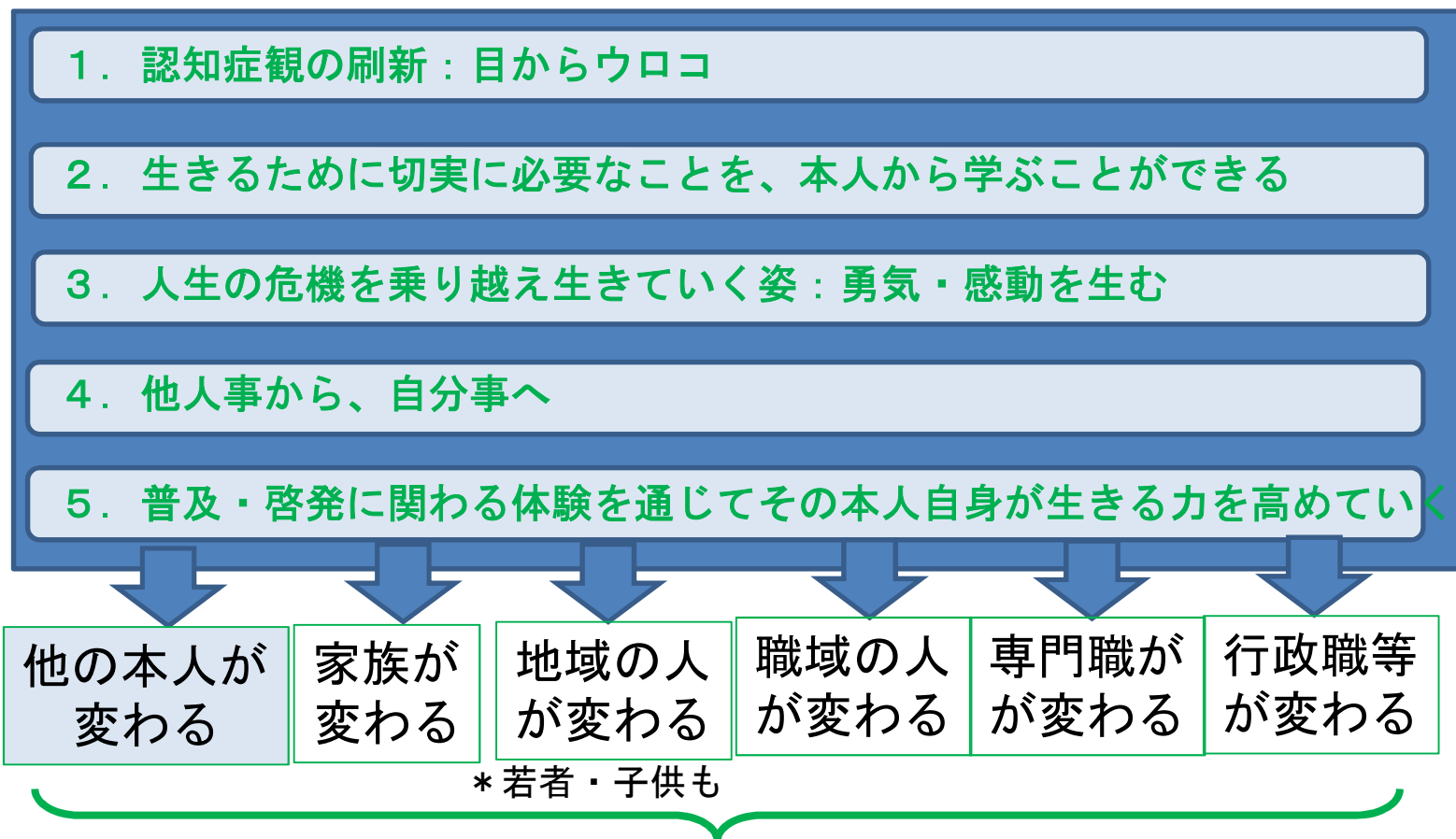
## 3. 人生の危機を乗り越えながら生きていく本人の姿：感動・勇気を生む

## 4. 他人事から、自分事に：自分のこれからは

## 5. 本人が「語る」体験を通じてその本人自身が生きる力を高めていく

- \* 自分について考える機会になる、\* 認知症になったからこそできることの発見
- \* 自信、よろこび、やりがい、あらたなつながり \* 伝える力、活動する力を伸ばす。

## 「本人の声を聴く」：多様な人々がともに



★真の共生社会をともに築いていくための大事な礎  
認知症サポーターとの活動、そして全ての事業も「本人の声を聴きながら」

参考 推進員がカフェをどう運営したらいいか悩んでいた(本人が集まらない、負担が大きい)  
→行政職員「まずは、その地域の本人の声を聴いてみたら〜」  
「どんなカフェだったら本人が行きたくなるか、ヒントが見つかるよ」

## カフェに来ている本人、地域で暮らす本人の声に耳を澄ましてみた。

鳥取市





本人がやりたいことをやれて、自分らしい姿を蘇らせるカフェに  
 →サポーターさんもカフェに集まり始めた！  
 サポーター:わたしも一緒に楽しんでいます。

特別なことではなく、本人さんの声ききながら、一緒に



# 男性の料理教室に展開 (男性の介護家族、そして本人)



日時:平成29年5月29日(月)  
10:00~13:00  
場所:COMMON 吉方温泉  
参加費:500円  
持ち物:エプロンとあまっている野菜  
などがあればご持参下さい。

～男性介護者の会～  
**調理実習**

初めての方も大歓迎!  
男どうしてワイワイやりましょいな!!

メニューは決めず  
冷蔵庫の残り物で  
ちゃちゃっと作るで～

(お問合せ先)  
COMMON吉方温泉  
☎0857-30-7881  
担当:金谷・阪本





# 聴いた声を、無理と決めつけず に、

外に行きたい。・・・

山に登りたい・・・。

→わたしも～。仲間を募ろうよ～。



鳥取県鳥取市にある山 標高263m

## \*\*\*\*\* 石井さんと 久松山に登ろう！ \*\*\*\*\*

日時：5月12日(土)

9:00～12:00

【タイムスケジュール】

- 9:00 鳥取県立博物館前 集合
- 登山開始!!
- 頂上で歌の合唱～♪
- 11:00 下山予定



○各自、水分、タオル、帽子を持参してください。

○下山後時間がある方は、博物館内のカフェ・ダール・ミュージゼで、お茶をしながら、ちよこつと話しましょう。

○参加申し込み 電話 080-2906-8461

認知症地域支援推進員 金谷まで気軽にお問合せ下さいませ。



参考

**推進員が、関わっている本人の呟きをキャッチ。  
課長→そういう呟きが大事。現場に行って伝えよう。**

御坊市

- 大好きだった 風呂(スーパー銭湯)に  
たまにでいいから行きたい・・・。
- この声を銭湯に伝えて、話しあった。
- 他にも、なじみのお客さんで足の遠のいている人がいる。
- ここで、集まり(カフェ)をやれないか。
- 銭湯での集いを開催。
- 大好評。本人、介護家族、支援者、サポーターさんが月1で。



●**風呂場でものがわからへん。**

→この一言を、従業員に伝える。

→よくいわれる。工夫してみます。

→本人が一人で頭を洗えるようになった。

→従業員も喜ぶ。

本人の声を聴いて、従業員が

いろいろな工夫を自主的に！

→他のお客さんにも好評！

**推進員が、本人の声を関係者に伝え、**

**一緒に小さなアクション成功体験を積み重ねる。**

→日々、本人の声をもとに本人視点で

**活躍するサポーターが増える！**



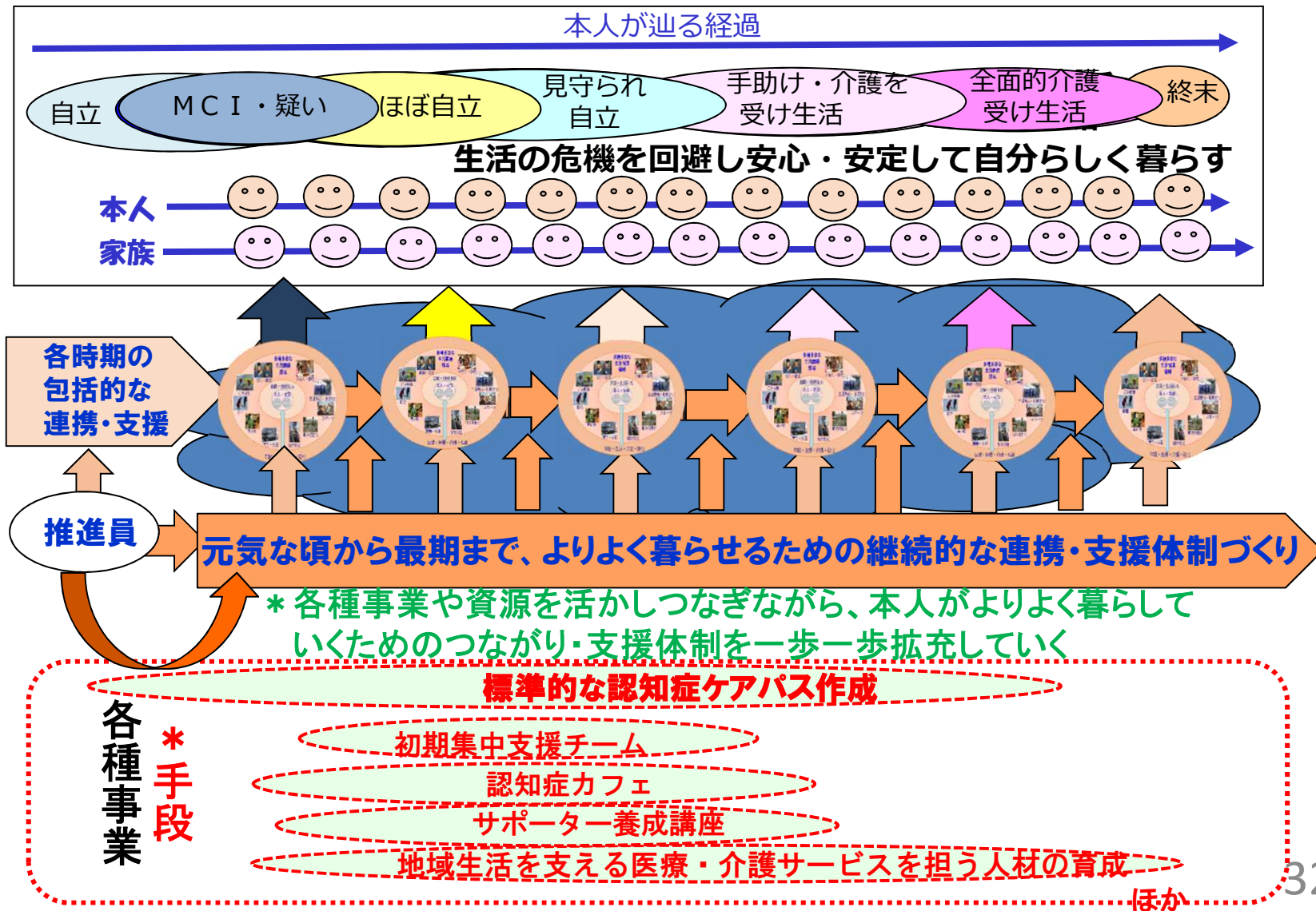
**本人の声の中に、本人の願い、そして  
本人から見たバリアがある。**

**認知症バリアフリー：本人の声を丁寧にききながら**



### 3. アプローチの変革: 事業重視から本人が暮らすつながり重視

\* 事業を手段として、本人が暮らすためのつながりの強化・新たなに創る





推進員：個々の事業にとどまらず、各事業からどうつながりを生み出していけるか  
 入口はどこからでも連携・本人に役立つ支援体制づくりの展開へ

2018年度 推進員前億調査結果より

推進員の機能

本人がよりよく暮らしていくための  
 地域支援体制の構築

医療・介護等のネットワーク構築

関係機関と連携した事業の企画調整

相談支援・支援体制づくり

多様な活動を統合した体制づくり

取組んで効果がみられた活動

N=2,476

- 1) 認知症ケアパスの作成・普及・活用を通じたつながりの拡充 400(16.2%)
- 2) 多様な人が学び合いつながる場作り (多職種協働研修等) 252(10.2%)
- 3) 認知症カフェをきっかけに本人と地域、専門職をつなげる 677(27.3%)
- 4) 認知症介護指導者との連携・協働 109(4.4%)
- 5) 初期支援集中支援チームとの連携 612(24.7%)
- 6) 本人の声をもとにしたつながり・その拡充 184(7.4%)
- 7) 活動全般をつなぎながら支援体制を拡充 161(6.5%)

## 要チェック！

- ・ 市町村として、推進員の機能の重要性を考慮し、  
「単発の事業実施でおしまい」ではなく、  
連携・支援体制づくり（ネットワークづくり）を  
明確に依頼しているか。
- ・ そのために、推進員が有する時間やその人の強みを活かして、  
どの事業・取組に注力すべきか、行政担当者と推進員とが  
本音で話し合えているか。

# 推進員の活動実例：認知症ケアパスが実際に役立つものになるために・・・

## 認知症ケアパスの作成・普及・活用過程を活かす

長崎県諫早市

本人視点にたつて本人がよりよく生きていけるためのケアパスを医師・医療職、介護職と工夫を重ねて作成。共に普及・活用する過程で、連携・対応力・支援体制が少しずつ育っている。

## 認知症ケアパスを一人ひとりに役立つものに

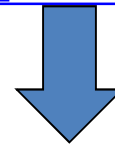
**「いさはやオレンジ手帳」「オレンジ連携シート」**  
 自分の将来を自分で考え、その内容を、本人と家族、仲間や専門職同士で共有することで、認知症になっても自分らしい暮らしの実現に役立っている

## 4. 主体の変革：行政主体から、(本人含め)地域が主体へ

\* 行政が決め「ご協力願う」「活用」でなく、本人・地域の人たちが決めて力を発揮

\* 取組が自己増殖・持続発展していくためには、  
本人・家族、地域の人たち(専門職)の主体性を大切に  
・どの地域にも必ずある  
・「わがまちを、なんとかよくしたい」と願い、  
自ら動き出したいと思っている人たちが地域にいる。

\* 地域の人たちの力を信じて、主体性をじっくり育てていくことが  
推進員の大事な役割り。



行政と推進員が方針合わせすることが肝心。

- ・もはや、行政主導では進まない。
- ・実質がよりよく拡充していくためには、  
本人・地域(専門職含む)が主体に。

## 推進員の活動実例：当事者に切実な免許返納に焦点を当てる

### 免許返納

和歌山県御坊市

→一人を通じて、よりよく暮らしていくための地域のつながり・支え合いを丁寧育てる

○地域包括支援センターに近所の人から入った「運転が危ない人いる」「車で出かけるのをやめず心配」という相談からスタート

○推進員が方針を課長、課員と共有

- ・本人の視点にたつ、本人の声をよく聴き、暮らしをよくみながら。
- ・「免許返納」、「運転をやめさせる」を目的にしない。
- ・本人が願う暮らしを続けていけるように本人、地域の思い・力をいかす

○推進員が本人宅へ出向き、車での外出の様子や願いを実際に確認。

本人が何のために運転していたか・・・

- 昔からの仕事(大工)の倉庫に通い「居場所」が欲しかった。そして「働きたい」。

○推進員は、本人の様子やことばを地域のケア関係者に伝え相談。

デイサービスを利用し、本人が大工仕事をして活躍できないか。

**\* 介護事業者と地域のつながりをつくる、一緒に取組ながら育てる**

- 本人に提案したら、デイサービスに通い、喜んで大工仕事をするようになる。

車で倉庫までいかななくても身近な地域での居場所、活躍の場ができたので、運転しなくなる。

- 免許返納をスムーズに終える。家族も、地域の人も安堵。

○本人がプロの腕を活かして作りあげて「お地蔵さんの祠」の完成祝いをするに。本人たちの発案で地域の人たちや子供たちと餅まきを。



車は傷だらけ



本人の「仕事場」



使い慣れた道具を  
デイに持参して作業



祠が完成！



デイサービス内で  
本人ミーティング。  
本人同士でしたいこと・

できることを話し合う  
→声を即、活かす。





祠の完成を祝い、餅まき前に  
「本人（棟梁）」が地域の皆さんに挨拶。  
「皆さんのおかげで、無事に完成しました！」



多くの住民とともに完成を祝い餅まき開始

切実な「運転・免許の問題」を抱える一人と共に

- 本人の声をもとに、本人の力を活かして居場所と活躍の場をつくる
- 本人、そして当事者たちが、専門職や地域の人と自然体でつながって一緒にいい日々、いいひと時を過ごす関係が広がる

# 町のあらゆる人が、認知症の人と家族の見守り手・支え手 \*本人が育ててきた自己資源を大切に、つながりを保つ、活かす。



★領域を越えたつながりが、新たな解決力を生む：専門職・行政職も地域の一員

## 5. フォーマーションづくり: 推進員を中心に効率的に推進するカタチをつくる

\* 推進員を孤立させず、最大限に機能できるためのフォーマーションを

### 要チェック!

#### ①人口規模や地域特性を考慮した推進員数を配置しているか

- ・ 人数                      1市町村あたり平均 4,5人  
                                    人口が1万人未満の小規模自治体の中にも  
                                    複数配置を行っているところがある。

#### ②推進員機能を果たせる人材を起用しているか。

委託の場合にも、法人管理者に推進員の重要性、必要な機能を説明し、適材の配置を依頼しているか。  
短期間に異動させないように、依頼しているか。  
\* 法人にとってのメリットを提案

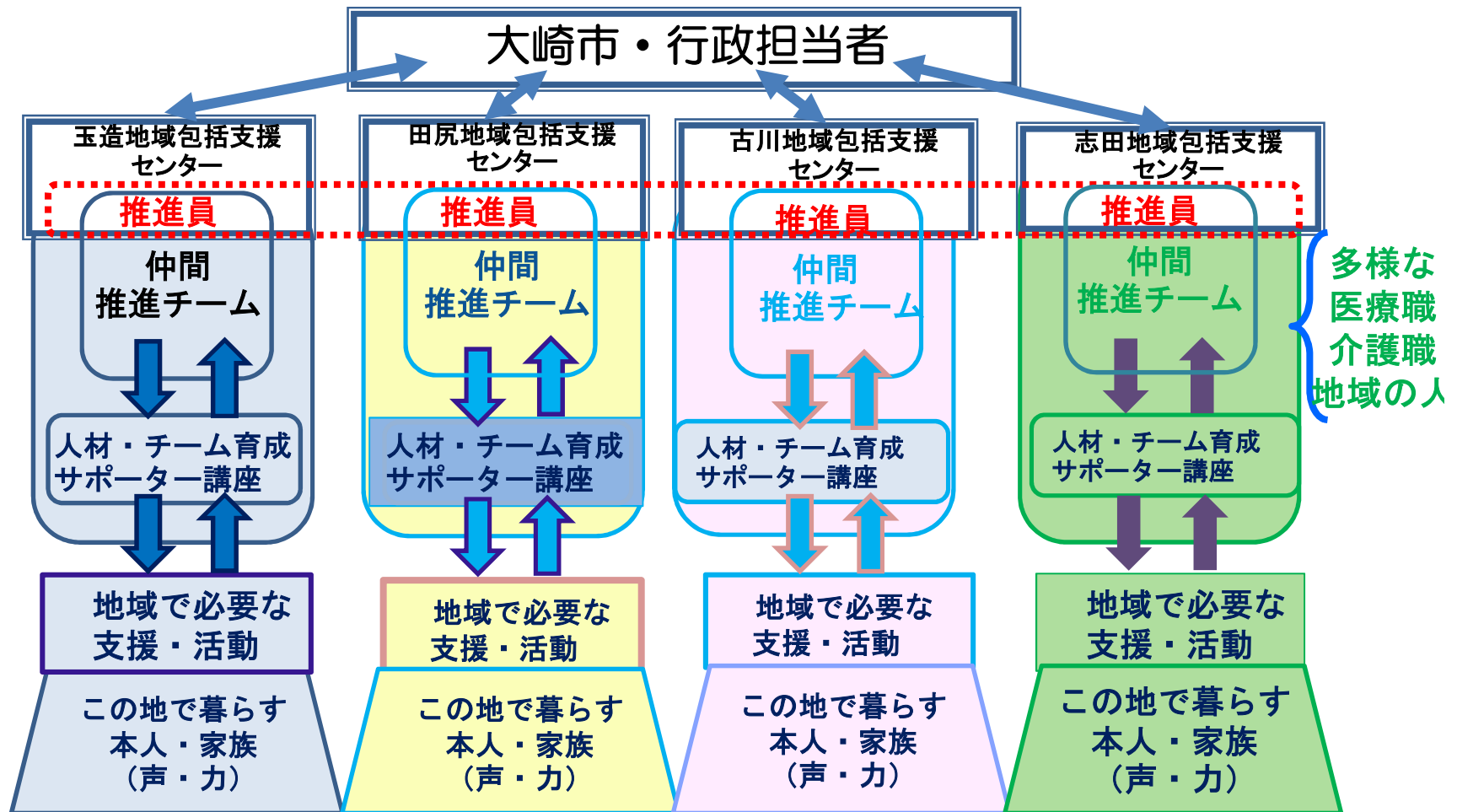
#### ③本人、地域の人が行き届く推進員活動になるために

推進員が機能しやすい**フォーマーション**を築いているか。

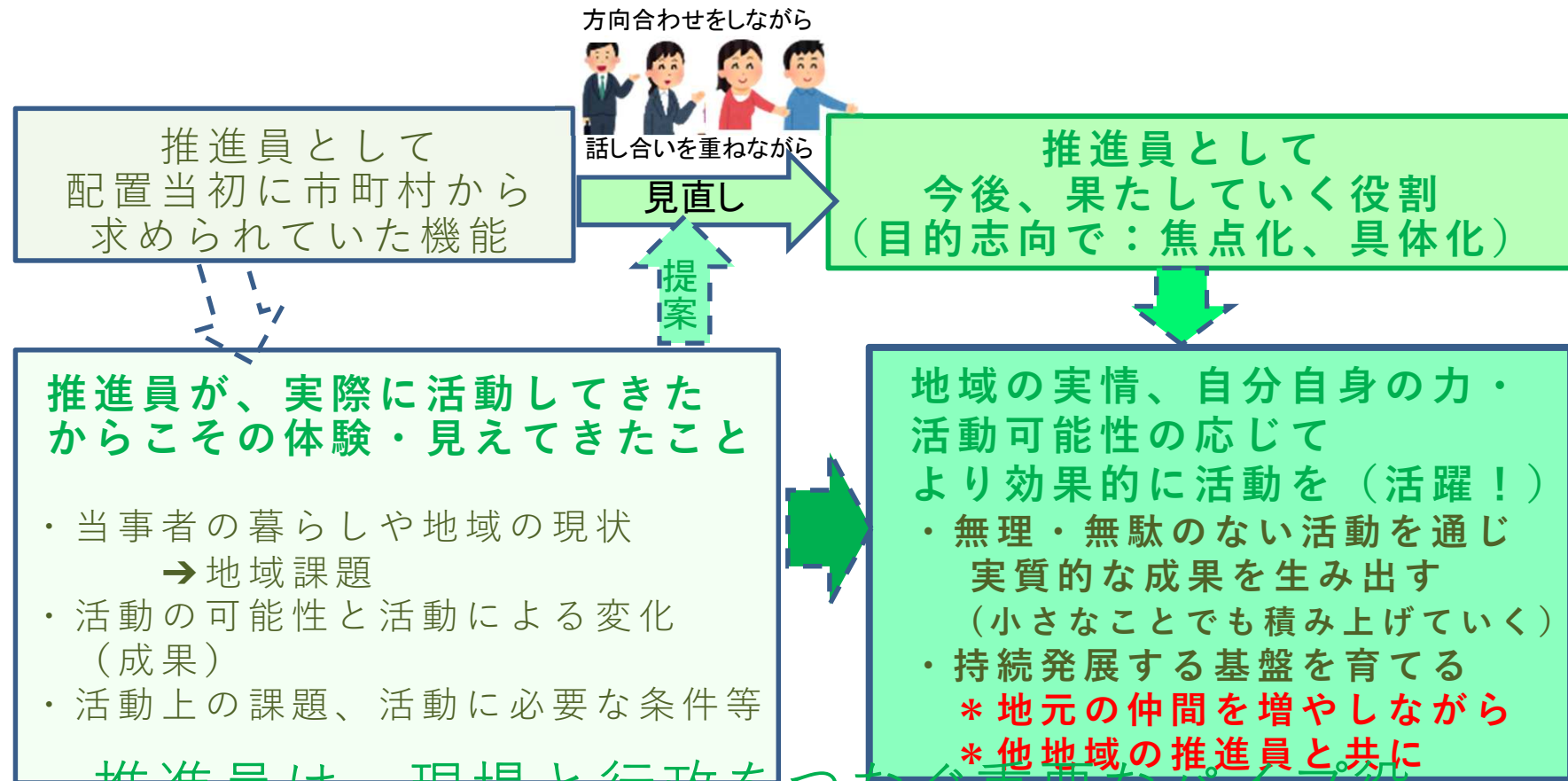
\* 推進員数を増やせない場合にこそ、推進員と協働する推進役をつのりながら

# 認知症地域支援推進チーム人材育成を通じて～約2年間～

本人の視点を大切にする仲間・推進チームが育つ⇒チームで地域の専門職・住民を育成  
⇒各地域ごとに工夫しながら地域活動を展開⇒本人・家族が早めに身近な場・人とつながる



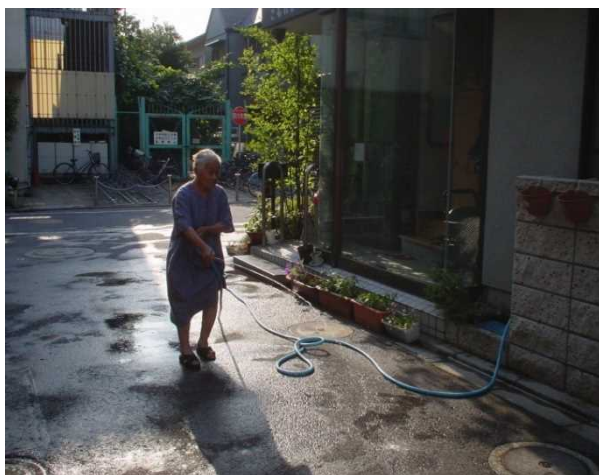
# 自地域での推進員（自分）の機能の見直し・焦点化を



推進員は、現場と行政をつなぐ重要なパイプ役

- ・ 定期的に話すあう機会をつくろう(月1～2か月に1回位)
- ・ 計画作り等の際には、必ず前向きな意見・提案を聴き、反映





**これから……**

**本人(自分)が、自分の地域でどう暮らしていけるか  
～どんな人にも、どの地域にも、可能性は未知数～**

## 5つの柱

1. 普及啓発・本人発信支援

2. 予防（認知症への「備え」として）

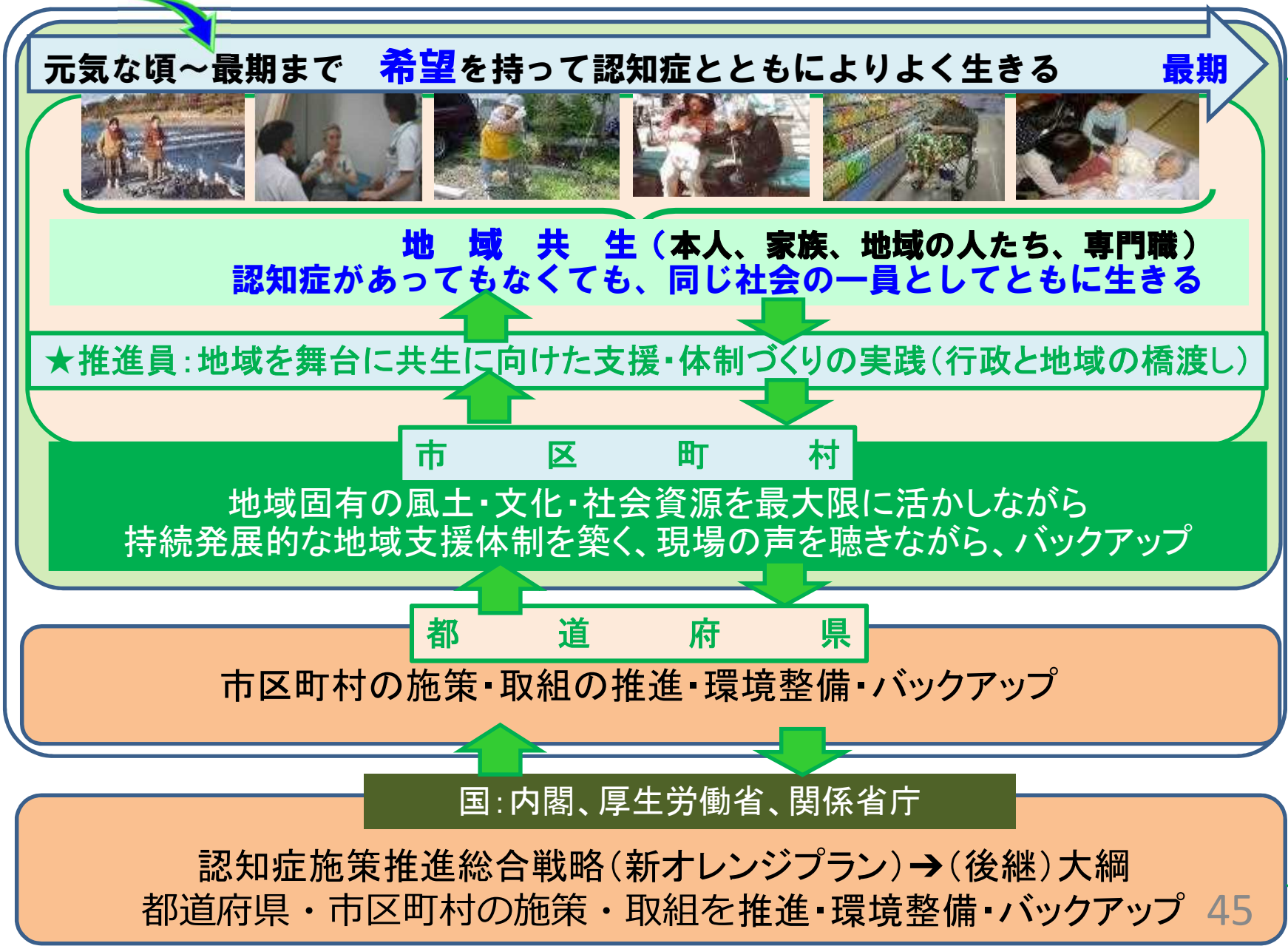
3. 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

4. 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人の支援・  
社会参加支援

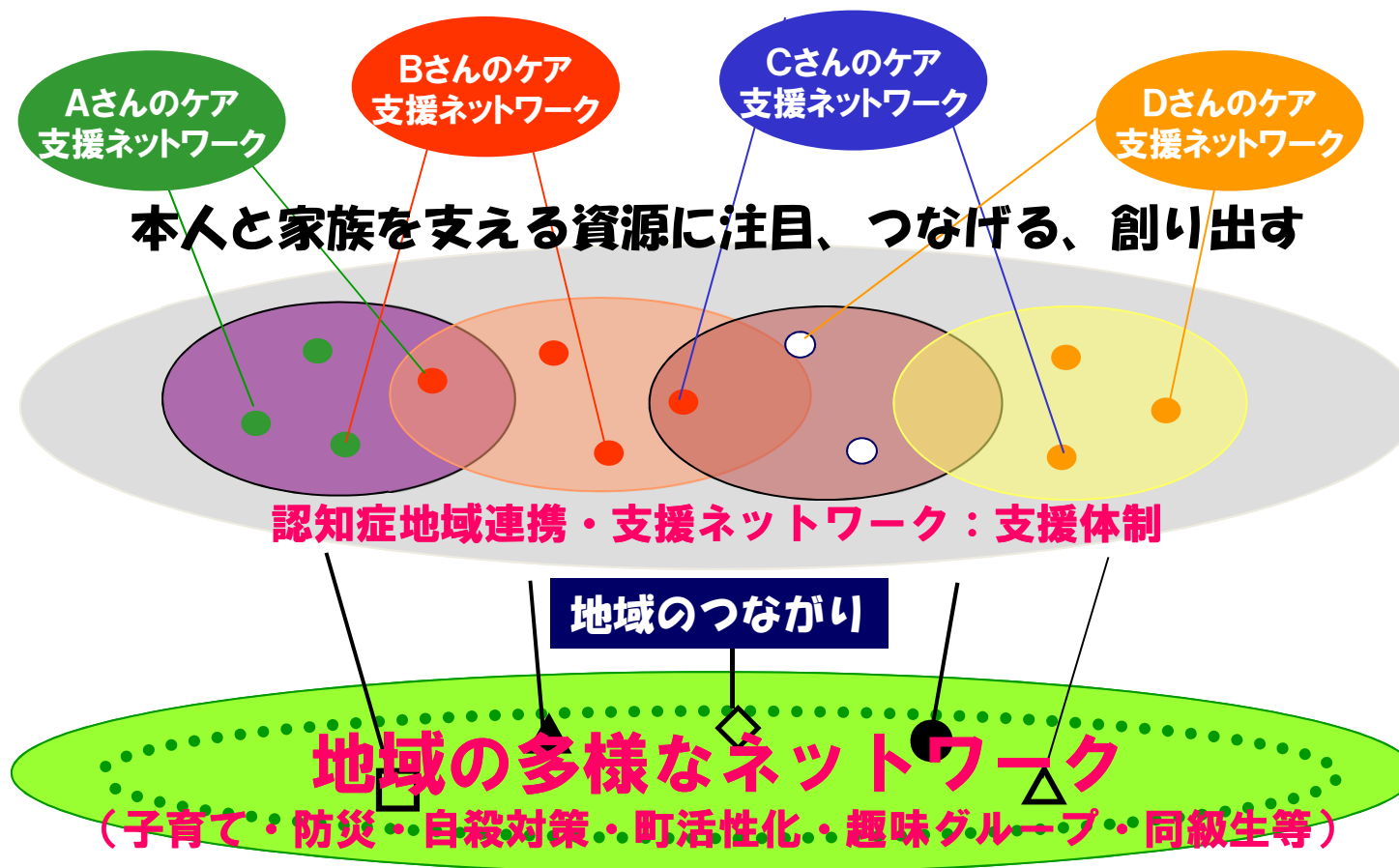
5. 研究開発、産業促進及び国際展開

- \* 5つの柱にそって施策を推進する・
- \* これらの施策は、すべて認知症の人の視点に立って、認知症の人やその家族の意見を踏まえて推進することを基本とする。

めざす姿の実現にむけてアクションを:現場、推進員・市区町村-都県-国が重層的に



一人一人の個別支援と地域連携・ネットワークづくりは地続き  
縦割りを越えた本人中心の支援体制づくりを行政と推進員と一緒に、  
一步一步



社会は変化し続けています。  
認知症になったの生き方・支え方も  
変化し続けています。

一人ひとりが持っている可能性  
わが町にある可能性  
を、どうか大切に。

自分が  
自分らしく伸びやかに  
地域の中で、ともに暮らし続けていく  
新しい流れを、一緒に。

